

## 妖怪大集合

目には見えないものの、日本では古くから恐れられたり崇められたりしてきた妖怪。アニメや映画の題材にもなり、現代でもその存在感は不動のものです。今回は、そんな妖怪や精霊に関する本を集めました。

1冊目は、杉山亮/文 軽部武宏/絵『かっぱ』です。

釣りから帰ってきた父親が、大好きなやきだんごをよそにうつろな目できゅうりをむしゃむしゃ。怪しく思った女の子が父親の正体に気づいたときには…。

薄暗い雰囲気やかっぱのぬるりとした質感が表現された絵と、不気味でありながら引き込まれるストーリーは、大人も思わず固唾を飲みます。他にも、うみぼうずやばけねこなど“杉山亮のおばけ話絵本シリーズ”は読みごたえのある妖怪絵本としておすすめです。

2冊目は、川村易/著 O S A m o o n/著『身近な妖怪ハンドブック』です。

この本は、妖怪を一般生物の分類階級のように学名・分布・生息環境・見られる時期などに分類、編集されています。江戸時代に発見された妖怪とともに、当時居るはずのないところで発見された噛みつきガメや白昼に見ることのないハクビシンなどの動物も、妖怪の変容前として紐づけて紹介されているので、実態をイメージしやすいです。じめっとした梅雨の時期は、小型サイズのハンドブックを片手に妖怪を探してみるのも面白いかもしれません。

3冊目は、佐藤秀司/著『迷路のまちの小さな美術館の挑戦』です。

この本は、東京から小豆島に移住した著者が「妖怪美術館」を作るに至った経緯を含め、アートによる町おこしに挑んだ7年間の奮闘記です。

妖怪美術館では SNS のいいね！を集める妖怪やテンション爆上げ妖怪など現代人の心を反映した立体造形が展示されています。具現化された妖怪たちは、世俗的で日本の精神性をリアルに伝え、外国からの観光客にも人気です。人間と妖怪、過去と未来が交差した不思議な美術館の魅力を知ると実際に足を運んでみたくくなります。

この他にも、国内外の妖怪・精霊に関する事典や個性豊かなキャラクターがかわいい小説などを集めました。ぜひ、図書館へお越しください。